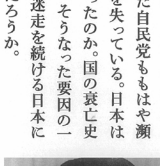
日本の政治リーダーへ

歴史を忘れた民族は滅びる

京都大学教授
中西輝政

民主党政権が誕生した。しかしその足下は極めておぼつかない。野党となった自民党ももはや瀕死の状態で、政権担当能力を失っている。日本はなぜ、こんな国になってしまったのか。国の衰亡史を専門とする中西輝政氏は、そうなった要因の一つに歴史観の欠如を挙げる。迷走を続ける日本に再生の道筋は見えてくるのだろうか。



「いまの民主党には政権担当能力がない」

民主党政権の誕生は昨年の最大の出来事でした。戦後初とあって、「政権交代」という言葉は流行語大賞にも選ばれたようですが、そもそも議会政治における政権交代がつきものなのです。ではなぜ日本では、それが珍しかったのか。突き詰めれば、政権交代をさせるほどの成熟した野党がなかったという一言になかにし・てるまさ――昭和22年大阪府生まれ。京都大学法学部卒業。同大学大学院、英国ケンブリッジ大学歴史学部大学院修了。米国スタンフォード大学客員研究員、静岡県立大学教授などを経て現在京都大学大学院人間・環境学研究科教授。著書に「大英帝国衰亡史」(PHP研究所)「帝国としての中国――朝貢の論理と現実」(東洋経済新報社)など。また近刊の翻訳に「ヴェノナ文書――ルーズベルト政権とソ連スパイ」(PHP研究所)。

尽きると思います。

日本には一九九〇年代まで社会党という野党第一党が存在しました。しかし、非武装中立、「自衛隊解散、「社会主義経済への移行」を主張する政党に政権を託すことは国民の良識が許しませんでした。問題は感じつつも、自民党に委ねるしかなかった、というのが実際のところだったのです。

冷戦後、その社会党が瓦解し、政党の離合集散を経て民主党が誕生。昨年初の政権交代に至りました。ここで問題となるのは、では与党となった民主党には果たして政権担当能力があるのか、そして野党となった自民党はどこの先どうなるのかという点です。

政権担当能力の有無を考える時、二年前のある出来事が思い出されます。当時民主党代表だった小沢一郎氏は、自民党の福田康夫総裁と民主・自民の大連立を協議しました。議員の反対で立ち切れにしましたが、注目すべきは、大連立を打ち出した時の小沢氏の記者会見における発言です。氏は与党としての政治運営に意欲を示し、はっきりこう言い切ったのです。

「いまの民主党には政権担当能力がない」

野党時代とはいえ、党首の二年前のこの発言は極めて重要な意味を秘めています。

実際、鳩山内閣は早くも足下がおぼつかない状態です。何より日米関係にそれは顕著です。普天間基地の移設問題を巡って内閣首脳の意見が割っていることは周知のとおりですが、忘れてならないのは沖縄の基地問題が、安全保障の核心部分だという点にあります。

冷戦後は終結したものの、北朝鮮の核の脅威は増し、拉致問題には一向に解決の兆しが見出せません。片や中国は急速な勢いで軍拡を進めています。そうした中で日米安保条約は少なくとも今後十年間は日本が国家として生存する重要な基盤となるはずのものです。

ところがどうでしょう。鳩山首相は基地問題に関するオマル大統領との合意内容を「反古」にするような発言を平気でしたり、その軽率ぶりには驚くほかありません。日米関係の亀裂が決定的となった場合、日本は計り知れない代償を負うことになります。その責任をどう考えているのでしょうか。肝心の外交、安全保障問題を取り上げただけでも、民主党に政権担当能力がないことは最早明白なのです。

次に財政問題です。足下竜馬「事業仕分け」によって、子ども手当などマニフェスト実現に必要な財源が、事業化に必要な額は民主党が言うムダの削減よりヒト桁多いとわれます。巨額の赤字国債を発行しない限り実現できないことは、多少国家財政の事情を知る人なら容易に想像がつくことです。

一方で長引くデフレにより廃業する企業が次々、失業者はますます巷に溢れています。そういう人たちにマニフェストがどれほどの意味を持つでしょうか。それ以前にマニフェストの内容は、国民が本当に求めていることでしょうか。再考を促したいところです。

イギリスやアメリカなど成熟した民主主義国はマニフェストや選挙公約を金科玉条の如く掲げることはしません。実際に政権運営取りをするなかで、必要なもののそうでないものとがおのずと明確になる。その的捨選択の判断は、選挙中の公約には拘束されないというのが議会制度をとる民主主義国家の大切なルールだからです。

民主党がなぜマニフェストに固執するのか。来るべき参院選で大勝するためだ、という声が聞かれます。だとすれば、マニフェストは保身、権力維持のための手段以外の何ものでもありません。

以上のように国家存続の根幹である安全保障と財政の維持は、それが失われたら、もはや国家そのものです。むしろ日本を崩壊に導きかねない危険性すら秘めています。今回の政権交代が日本にとって凶事にならねばよいが、そう願うのは私だけではないでしょう。

自民党はなぜ野垂れ死にしたのか

一方、野党・自民党に目を移すと、これもまった政権担当能力を失っています。限度を超えて政権の座にしがみつき、国民を大きく裏切ってしまった。自民党の衰退はまさに自民党の不見識はそうでした。

自民党の敗因にはいろいろなことが挙げられるでしょうが、私はその一つに小泉政権時代の、「構造改革」の失敗を挙げたいと思います。